

## 親子の愛

ある程度、年齢を重ねていくと、自分の親を思うときが多くなる  
と思います。

また、自分自身が結婚して父親、母親の立場になってみて、改め  
て自分の親を思うこともあるでしょう。

親父さんもいいですが、ここではお袋さんにスポットを当てたい  
と思います。

ドラマで見たシーンを思い出します。

それは、刑事が犯人を落とすとき、故郷くこのお袋さんに話が触れるシーンです。頑かたくな犯人の心のヒダがほぐれる瞬間です。

お袋さん……、誰の心の中でも琴線に触れる部分です。

そして、一方では、クソババアと叫びながら、親を殺す子供もいます。

お袋さん……と呼ぶ心、クソババア……と叫ぶ心、そのどちらも、どなたの心にもある思いです。

人間は、その二面性を持っているのだと思います。

男と女の愛には、必ず「憎」の部分が付いて回ると同じように、親と子の愛にも両極端があるのでしよう。

また、親は無条件に我が子は可愛いと思いますが、すべての子供に平等に愛を注いでいるわけではないかもしれません。

どの子も可愛い、そう思う思いと、この子だけはなぜか憎たらしい、それで悩んでいる親、特に母親が案外多いのではないのでしょうか。

二面性を持つ人間の心の中、果たしてどちらが本当なのでしょう  
か。

私は、どちらも本当であって、どちらも本当ではないと思つて  
います。

親父さん、お袋さんを大切に思う思いと、クソが付いたり、極道  
したり、拳句の果てには殺してしまったりする心が同居しています。

一方で、無条件に我が子は可愛いと溺愛する心と、我が子がうつとうしくて仕方がない、だから邪険にする心が同居しています。

それが二面性を持つ人間の心です。本当であつて本当ではない人間の心です。

その二面性の心の中で、親と子の間の思いが入り乱れて、色々な結果を生み出していきます。

みんな、自分の本質を忘れ去つた結果が、親の立場から、そして、子供の立場から、噴き出してくるのです。

親と子が、本当の愛で、自分達の中を繋いでいくためには、それぞれが、本当の自分を知り、感じていく以外にないのです。

そして、本当の自分と出会つていったならば、親子の間柄だから、

どんなことも許されるという甘えや、私の言うことを聞けという一方的に牛耳るぎゆうじ思いやわがままは、どこかで修正されるのです。

そうやっていけば、今、社会現象として起こってきているような特異な事件には至らないはずです。

誰も、本当の自分というものを知らないから、様々な環境が引き金となって、心に蓄えてきたエネルギーが暴発していくのでしょうか。親子間もそう、男と女の場合もそう、自分の中のエネルギーが暴発していきます。

未然に防ごうと思っても無理です。

そして、自爆して気付けることもあるのです。

自爆しては、元も子もないといわれるかもしれませんが、本来の

私達には、形はありませんから、自爆しても、自分というものはなくならないのです。

自分を含めて、どれだけ形の世界が崩れていこうとも、その中において、自分の出してきたエネルギーを感じ、自らの過ちに、自らが気付いていったなら、それでいいだけです。

すべては、自分のエネルギー、つまりは自分自身を知っていくためにあるからです。